

青梅市文化財ニュース

第 1 1 号

昭和63年 8月 1日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土資料室

(青梅市駒木町 1-684 TEL0428-23-6859)

荒川の上流、黒沢川流域には8件の市指定文化財があります。

青石塔婆（1基）	黒沢 聞修院蔵	S39. 11. 3 指定	市有形文化財
入会地論争裁許地図	小曾木 宿谷藤平氏蔵	S39. 113 指定	市有形文化財
懸 仏	小曾木 御岳神社蔵	S43. 11. 3 指定	市有形文化財
注成唯識論残欠	富岡 常福寺蔵	S43. 11. 3 指定	市有形文化財
市川家日記（7冊）	小曾木 市川広久氏蔵	S49. 1. 1 指定	市有形文化財
岩蔵温泉	小曾木 5-3140 地内	S30. 11. 3 指定	市史跡
岩蔵住居跡	小曾木 5-3187 地内	S41. 4. 15 指定	市史跡
厚沢の源氏ボタル	小曾木・厚沢地域	S43. 11. 3 指定	市天然記念物

◎ 動物の指定は市内唯一

厚沢の源氏ボタルは市内で唯一の動物、それも昆虫が指定されたものです。7月の初旬、民家のまばらなこの厚沢の谷田に、夏の風物詩を光らせてくれます。上流はゴルフ場で川水の汚れは今のところ少なく（幼虫の餌となるカワニナの生息が第一条件）毎年鑑賞するためにマイカーで訪れる人も多いようです。しかし、谷田が埋め立てられつつあり環境が変わっていることは心配のタネです。

◎ 東青梅～黒沢川間に鉄道が走る

といっても今は昔、大正7年（1918）のことです。浅野セメント株式会社が石炭石産出に着目、青梅4小、天寧寺横を通り、黒沢2丁目地内まで専用線を敷設しました。しかし黒煙を出しながら走った貨物列車の姿も4年後の大正11年6月には廃止されてしまいました。現在でも黒沢2丁目地内、柳内酒店前に一部線路敷の平坦な地形が残っています。そしてその姿を記録している古老も少なくなっていました。

◎ S35年まで亜炭・泥炭を発掘した東京炭礦

現在はバス停の名称のみ残る。昭和10年ころから採掘最盛期はS33年で月産500トン。落盤事故も1件戦後のあり死者1名が出ました。今は堅坑2本が残るだけです。

(文責 川鍋幸三郎)